「株式投資アカデミー」東京証券取引所の見学・投資体験レポート

令和８年９月29日（火）、特別講座「株式投資アカデミー」を受講している生徒５名が、文化祭の振替休日を利用して、日本の金融の中心地である東京証券取引所の見学ツアーと株式投資体験に参加しました。



この講座では４月から、ファンダメンタルズ分析による優良銘柄の選び方、財務諸表の見方、そしてテクニカル分析を用いた購入時期の決定など、本格的な投資の知識を学んできました。今回は実際の市場の熱気を感じ、その仕組みを知る機会と位置付けた校外学習です。

1. 見学ツアーで学んだ証券取引所の歴史と進化

見学ツアーでは、証券取引所が誕生した経緯から詳しく説明を受けました。明治時代に始まった取引所が、戦争や激しい景気の波を乗り越えながら発展してきた長い歴史に、参加生徒は一様に驚かされていました。

特に印象的だったのは、株価が急上昇し、多くの人が熱狂したバブル期のお話です。当時の様子からは、市場が人々の心理に大きく左右されるものであることがリアルに実感できました。



かつては「立会場」と呼ばれる場所で、大勢の人が手サインを使って売買していましたが、現在はほぼすべてがコンピューター処理へと移行しています。その劇的な変化の大きさにも目を見張るものがありました。

また、実際に見学したチェッカー（電光掲示板）や鐘、ボードには、映像で見るだけでは分からない圧倒的な迫力があり、市場の歴史を肌で感じることができました。

2. 株式投資体験（シミュレーション）でのリアルな気づき

続いて行われた株式投資体験では、限られた時間の中で銘柄を選び、刻々と変化する株価を見ながら売買を繰り返すシミュレーションに挑戦しました。



20 分間という短い時間の中でも値動きは激しく変化し、「迷っている間にチャンスを逃してしまった」という場面も多く見られました。

その中で、なんと利益トップの参加者は元手を約 3 倍にまで伸ばし、その素晴らしい判断力と行動の速さに、周囲からは大きな歓声と衝撃の声が上がっていました。

お互いの結果を見比べることで、買いのタイミングだけでなく、利益を確定させる「売りのタイミング」を見極めることの難しさと重要性を、身をもって痛感したようです。

3. 参加者の感想とこれからの抱負

今回の体験を通じて、株式市場は「企業が資金を集め、投資家がその成長を支える」という、社会を動かす重要な仕組みであることを深く理解することができました。同時に、大きな利益を得られる可能性がある一方で、常に損失のリスクと背中合わせであるという金融リテラシーの大切さも学びました。

参加した生徒たちは、「今後はニュースや経済の動向にさらに進んで関心をもち、それらが株価や日々の暮らしにどう影響するのかを考えていきたい」と、今後の課題を見出していました。

10 月からは実際の投資運用が始まります。今回の貴重な経験を思い出し、目先の値動きに惑わさず冷静に判断してくれることを期待します。

今回、温かく迎えてくださった東京証券取引所の皆さま、貴重な学びの機会をいただき本当にありがとうございました！

